

生きいき憲法

日政京京以



2012年8月5日(日) 生きいき憲法 第23号



「胡蝶の夢」

制服向上委員会

7月1日、正則高校で開かれた九条の会・東京の大会の交流会の全体会。アイドルグループ制服向上委員会の登場で開幕。第9代目リーダーの小川杏奈さんが「清く、正しく、美しく。二十年前に結成されたアイドルグループです」と挨拶すると、ドツと歓声。「会長の橋本美香を紹介します」で登壇した橋本美香さんが、「新しい歌です」と、ソロで歌い始めました。その過激な歌に会場を埋めた人たちから拍手喝采。その歌が「胡蝶の夢」です。

胡蝶の夢 作詞&作曲：鈴之助

♪原爆落としたアメリカの

野望にへつらう政治家が 魂売って買ったのは
基地に原発 オスプレイ

♪日本の平和と安全は 米軍基地のおかげです
きれいな海の沖縄は いつでも日本の犠牲です

♪日本が豊かになるためと 原発社会を作り上げ
事故で悲しむ被災者を 今ではすっかり忘れてる

♪原発事故の責任は 東電だけでは無理なので
国民負担にするなんて 悪政 野田ちゃん
許さない

♪オリンピックが大好きで 署名運動大嫌い
瓦礫と原発愛しても 都民の気持ちに知らんぷり

♪国民生活守るため 大飯の原発 再稼働
これで産業守れると 生命はいつも後回し

♪老後を楽に暮らすため 年金払うの義務ですと
受給年齢引き上げて そのうち誰も もらえない

♪政治をやってる人たちは 裏ではみんなお友だち
国会審議で揉めてても 信じる者は裏切られ

♪いらぬものが多すぎる 原発 増税 民主党
報道出来ないマスコミと 米軍基地に オスプレ
イ まるで 胡蝶の夢のよう

東京の「九条の会」大交流会（7月1日）講演

「憲法を日本のチカラに」

渡辺 治さん（一橋大学名誉教授、九条の会事務局）

はじめに

2009年8月30日、構造改革を止めて欲しい、普天間問題を何とかしろ、との国民要求から民主党政権が誕生した。しかし、その後、財界とアメリカの圧力を受けた民主党は、原発再稼働、社会保障と税の一体改革、TPP、普天間辺野古移転、オスプレイ配備など大きく変節してきた。

また、民主党と自民党、公明党が「大連立」を組んで国民の中に不安と怒りが渦巻き、橋下期待も高まっている。他方、6月29日の首相官邸前では20万人近くの人々が原発再稼働反対の声をあげた。この国の政治・社会はどこへ向かっているのか、憲法が生きる社会をつくるにはどうしたらいいか、について本日は話したい。

私たちはどこまで来たのか、どこにいるのか

今、一番考えなければならぬこと。一言でいえば、民主党政権は私たちの運動の力でつくったものだから、この力を確信して、この力をもっと前進させなければならぬ。冷戦終結後、

自衛隊海外派兵などの軍事大国化の動きが強まったが、軍事大国化に反対し、9条をまもる運動が大きく前進した。無党派市民運動と政党系市民運動が連携しないと対抗できないとして01年から5・3憲法実行委員会が、04年6月からは九条の会の運動がそれぞれスタート。

九条の会は地域を主体にした運動で全国で7,500を超えたが、地域に根づいた運動で地域を変えてきた。その結果、憲法改正反対の世論が広がり、04年は改正賛成65%だったが、08年は43%vs.42%と改正反対が多数を占めるに至った。

これは運動の力であり、安倍首相以降の自民政権は憲法改正ができなくなり、民主党も改憲政策を変えた。また、大企業の大儲け体制づくりも進み、大企業は大儲けしたが、地域と社会は餓死、自殺急増、格差社会とボロボロにされてきた。

これに対し、構造改革に対する反貧困、社会保障の運動が昂揚し、年越し派遣村での社会運動と労働運動の連携、労働者派遣法抜本改正でのナショナルセンターを超えた

連帯、後期高齢者医療制度反対運動での野党共闘などが発展した。

以上の運動が民主党を変え、政権交代となり、民主党政権は構造改革と軍事大国化の政治に歯止めをかけた。これは国民の運動の力であり、運動が政治を変えたことをはっ

きり掴まえることが大事だ。これに対し、財界とアメリカの猛烈な巻き返しが始まった。菅政権は構造改革回帰と消費税引き上げを睨んだが実行できず、「看板変えろ」の圧力で野田政権が誕生した。

野田政権は何をやろうとしているか

1つは、構造改革が新段階に入ろうとしている。98年以降15年間上げることができなかった消費税を10%引き上げようとしている。

2つは、原発市場への参入。兵器市場は大儲けできるが9条の下での武器輸出三原則で兵器市場に参加することはできない。そこで、原発市場へ。「日本は世



界一安全な原発を作っている」
として国民の安全、地域の再建
そっちのけで輸出へ。そのため
には再稼働が不可欠。

3つは、鳩山、菅のときは言
えなかった改憲案の大合唱。民
自公で国会議席の 95%を占め
るから大連立ができる舞台が揃
い、65年間でできなかった改憲が
現実化する機会を迎えている。

自民党が大連立の条件として
「憲法改正」を出してくるこ
とは間違いない。

憲法が生きる社会を

私たちはどんな課題をもって
立ち向かっていくか。これまで
の運動は間違っておらず、大き
な力を持っていたが（政権交代
を起こせていなかったら構造改
革の再起動はもっと早く、普天
間の辺野古移転は強行、集团的
自衛権の政府解釈を変更、消費
税増税も早かった）、問題は民主
党の変節を許したのは運動の力
不足と体系的な対案の欠如にあ
った。3つの課題がある。

1つは、構造改革の政治に終
止符をうつ国民的大運動、九条
の会型運動の継承から発展が求
められている。この運動の大き
な前進点は、「九条改悪反対」の
一点で良心的な保守の人々とも
共同できたことにある。

自衛隊、米軍基地、安保を認
めても海外での人殺しは絶対反
対、これが今までの平和運動と

は大きく違うところ。

成果の例を1つ紹介。新潟加
茂市の小池市長は 95 年まで防
衛官僚だったが、「自衛隊のプラ
イドをまもるため」と九条の会
のよびかけに参加。自衛隊を人
殺しの軍隊にしないため。その
後は市町村合併反対、県立病院
の産科廃止反対、公条例制定、
「日本一の福祉の町」へ。

こうして9条から 25 条へと
広がった結果、昨年の5期目は
無投票当選と地域は変わってい
った。また、高年の人たちが多
く参加していることが九条の会
の大きな特徴だが、それは自分
たちの力で改憲を阻止しなければ
ならないと思って立ち上がっ
ているから。

他方、若者の人生最大の悩み
は雇用、就職で9条ではないが、
その中で変化が出てきている。

原発さよなら集會に表われた
社会運動の新たな波がそれ。若
い人たち、赤ん坊を抱えた母親
と父親。自分たちが立ち上がら
ないと原発を止めることはでき
ない、との思いから参加層が拡
大している。

2つは、戦後最大の改憲を阻
む独自のとり組みを急いで進め
ること。これは九条の会にしか
できない運動であり、私たちの
出番だ。日本の針路を変えるか
もしれない大きな分岐点にある
現在、憲法改正派が再び過半数
を占めている（今年3月の読売

調査）。

改憲案ラッシュの背景はここ
にあり、「九条の会はこわくな
い」との分析がある。そのため
にも、改憲案のめざす危険な中
味を学習し、その批判を旺盛に
していかなければならない。

3つは、軍事大国化・構造改
革の政治に終止符を打ち、「9条
と25条が生きる社会」を積極的
に掲げて国民の中に訴えていく
こと。消費税を止め、TPPを
止め、原発を止めれば事態は変
わる。

憲法を生かすことは改憲阻止
の大きな力となり、またそれは
アジアと世界への責任、将来世
代への現役世代の責任である。
憲法をチカラに、大きな輪を作
っていこう。（島田修一・記）
※なお、渡辺治さんの講演は、
youtube で視聴できます。
JCJCAST で検索してください。

↓写真 60 年安保闘争 (1960 年 6 月 18 日)



	◇分科会の報告—メモ (分科会③は中止になりました)
--	--

分科会①「若者・高校生—伊藤真さんと語ろう」

若者・高校生たちと、憲法、平和、震災・原発等について語り合いこれからの課題を考える。

まず、各団体からの報告。東京高校生平和ゼミナールが東日本大震災被災地ボランティア及び原発学習、被災地の高校生との交流と「第17回東京の高校生平和のつどい」(2011年12月)について。Peace Night9が2011年の3つの講座①「安全保障と九条」②「国際問題と九条」③「労働と九条」の報告。

続いて原発NO！学生チーム。

首都圏青年ユニオン。全日本教職員組合青年部が報告。

そのあと、伊藤真さん(伊藤塾塾長・法学館憲法研究所長)の話。憲法の核心は一人ひとりの人間をそのまま大切にすること(13条)。人間を道具にしてはいけない。「平和的生存権」はこの平和と生活を合体させたものであり、自衛隊の存在自体は違憲、同様に原発の存在自体が違憲である。若い人の話を聞いて現場を体験することが重要であることを改めて感じた。若い時の経験は自分と社会にとって大きな財産。

そのあと、DVD「中高生のための映像教室 憲法を観る」第1章「自由に生きるって？」の鑑賞会を実施。参加者からの

質問、意見と伊藤真さんとの語らいが行われた。

若者の実際の関心にかみあえば、多くの若者がとりくみに参加する状況になりつつある、との発言があった。

分科会②「教科書・こどもの教育を考える」

参加者は49人。

昨年、大田区と武蔵村山市で「新しい歴史教科書をつくる会」系の育鵬社の歴史・公民の教科書が採択されたことを受け、憲法を守り、守らせる運動をしている私達にとって見過ごすことができない問題であると捉え、この分科会をもった。大田九条の会が準備。

まず、「公正な教科書採択を求める大田区民の会」、「武蔵村山子どもの教育と文化を育てる会」、「杉並の教育を考えるみんなの会」から、運動の経過と現状の報告。とりわけ杉並での運動の経験は、つくる会教科書採用をストップさせた経験として大変意義深いものだった。「教科書の問題はこれから生きる子ども問題であり、国の未来の問題。だから学校の中だけの問題ではなく、全ての人の問題」などの経験が語られた。続いて、参加者から活発な意見交流が行われた。

西東京市の「教育九条の会」

が高尾山を登山する人たちに案内を配布。足立区の九条の会は毎月九の日宣伝で民謡や替え歌を交えて創意工夫。品川区から学校現場の大変な現状(現職死亡の教員が6人も)が報告されるなど、子どもたちに本当のことを伝えるために真剣な話し合いが行われた。これからも教科書採択問題にとどまらず、九条を生かすために、交流を深めていこうということになった。

分科会④「徹底討論・次世代への継承」

参加者は15の地域・団体から24人。

まず、担当の法政大学OB九条の会から。1960、1970年代の大学の状況を振り返り、暴力で身体障害者にされた者の支援活動を続けてきたことを土台に運動を始めたこと、法政大学大原社研の前所長の言葉「団塊の世代よ、死ぬ前にたたかえ」を噛み締めているメンバーも多いことなどを紹介。

小金井九条の会。「居住地周辺に大学がいくつかあるが、学生九条の会がない」「自分の息子に声をかけても反応がなく、途方にくれている。継承は切実な問題だ」と。それを受けて、「戦争の話、九条の話となると、若い世代と全然話が合わない」など、悩み深い実情の報告が相次いだ。

しかし「3・11(東日本大震災)で変化があるのでは」との発言後、「若い世代も考えて動いている。それをどう後押しできるかが我々の責任だ」「九条の会がな

い大学や高校の前に行って、楽しく宣伝することをやってみよう」など、自分たちなりに考えている若者へのアプローチについての論議は一気に佳境に。

「次世代への継承」というテーマは幅が広く、「継承」する内容も含めて問題意識も様々であるため、「これだ！」という方向性でまとまったわけではないが、それぞれが抱える悩みがかなり具体的に表され、今後への妙案となるヒントを少しずつ吸収できた3時間だった。

分科会⑤「あたらしいメディアと九条」

開会前から満席。43名参加。

まず、仲築間卓蔵さんの問題提起「マスコミは信用できるか。私たちはどうすればいいか」を約40分。

仲築間さんは、「日本のマスコミは軍国主義時代の“大本営発表”と同じ“発表報道”。大事な事実から国民を“目くらまし”にする役割を果たしてきた。一つの例が2003年の『有事立法』『イラク特措法』のとき、『(あざらしの)タマちゃん騒動』『白装束集団騒動』。その陰で法案は強行採決された。いま『マスコミは信用できない』という声が上がっている。いま大事なことは、視聴者・読者がメディアを読み解く力をつけ、オルタナティブ(もう一つの)メディアの役割などを強調した。「インターネットの役割・可能性も」。

続いて、午前中の渡辺講演のライブ中継をした「自由メディ

ア」スタッフが、モニターで中継録画を上映しながら、新しいメディアの一つUSTREAMの“長時間中継”と“同時録画”という特性と仕組みを紹介した。

会場から「マスコミについて討論の時間を」との要望がでて4名が発言した(福島原発事故報道のこと。マスコミに取材された経験。優れたラジオ番組のこと。手づくり「ニュース」のことなど)。

分科会⑥ 伊藤千尋さんと語る「9条を世界へ」

「補助イスを20ほど用意し、60名近くの方が参加。

「映画人九条の会」に参加しているシネ・フロント読者とシネ・フロント編集部のメンバーが集まり、今回の大交流会参加を機に、「シネ・フロント読者九条の会」を結成し、朝日新聞記者でジャーナリストの伊藤千尋さんのお話を聞き、そのあと、伊藤さんと参加者が大いに語りあうという企画。

伊藤さんは、アフリカ沖カリア諸島や沖縄・読谷村にある「9条の碑」の話から、米軍基地を撤去させた南米エクアドルの憲法に日本国憲法第9条第1項と同じような条項が新たに書き入れたことなど、「憲法9条が日本にあることで世界の平和に貢献している。世界中が9条の精神で満ちる日がきってくる」という話に、参加者は大いに確信をもった。伊藤さんはさらに、原発や基地問題にも触れ、熱く話をされた。

続いて、伊藤さんが福島市で行われた運動会取材したときに協力してくれた「ふくしま復興共同センター放射能対策子どもチーム」の佐藤晃子さんからメッセージが読み上げられ、そのあと、「どけんねりま九条の会」や「群読日本国憲法」に取り組む「みなと九条の会」の方など5名の方から活動報告。

「これまで80年生きてきたが、伊藤さんのお話は目からウロコで新鮮な感動を覚えた。これからの人生をきちんと生きていこうと思います」との発言も。

分科会⑦「東アジア共同体と内外情勢」

当分科会は直前の会場変更のため開会時刻が遅れた。参加者49名。椅子がなく5名ほどが別会場へ移っていった。

下町人間・天狗講九条の会ベトナム訪問記映画上映(45分)後、三浦一夫氏(国際ジャーナリスト)が特別報告「ベトナム、東アジア共同体と内外情勢」。

そのあと、フロア発言・質問と懇談が行われた。

全体会での渡辺治さんの講演と分科会の開会のことば、三浦一夫さんのお話を聞き、現在の内外情勢と九条の会がたち上がることの重要性がよくわかった。

民・自・公3党を中心とする連合勢力が、アメリカと日本の財界、マスコミと結んで、消費税増税、社会保障改悪、原発再稼働、憲法改悪を一挙にやりとげようとする日本型ファシズム一戦前は天皇を中心だったが、

戦後はアメリカをバックに生まれようとしている。

人権と平和・国民生活を守る日本国憲法は日本国民のチカラになってベトナム戦争にアメリカに引きずりこまれることを阻止し、武力参加せず、ベトナム人民支援国際統一戦線を結成してたたかった。これが日本国民の前途と世界史の新しい段階をひらいた。この教訓を大切にしよう。

「いまベトナムで一番人気があるのは日本である」という訪問団の報告、南米共同体がすでに発足しているということも知らなかった。世界情勢について日本国民は目かくしされていることに注意して。

分科会⑧ いま沖縄を考える

40人余りの参加で、熱心に意見が交わされました。会場の視聴覚室の壁には、「韓国を訪問して日本の植民地支配を知った決意文」のタイトルで文章が綴られ、日本語とハングル語の二つの額が掲げられていて、「心を打たれた」という何人もの方の言葉がありました。正則高校では、韓国、長崎、水俣、熊本ハンセン氏病療養所などへの学習旅行や、1年生の3学期には現代社会の授業で在日米軍の学習をしているそうです。分科会には正則高校から5人の教職員も参加されていました。分科会はDVD「いま沖縄を考える」の上映で始まり、続いて「オスプレイ」についての資料解説の後、会場での話し合いに入りました。「い

ま沖縄を考える」DVDは、「みなみ野9条の会」の会員と「中央大学9条の会」の学生が協力して制作したもので、世界一危険な普天間基地と米海兵隊、沖縄戦と基地の歴史、基地が抱える問題、米軍人の犯罪、辺野古移転問題、そして憲法9条を生かした21世紀のあるべき姿など、豊富な資料をまとめた内容で作られており、沢山の方からこのDVDを「学習会で使いたい」と言って頂きました。(みなみ野憲法9条の会：永田)

分科会⑨「ハシズムを考える」

49名の参加。最初に、参加者この問題に対する課題意識、関心を発言してもらい、公務員・教師への攻撃の異常さ、労組敵視、独裁が必要と考える人物像、人気・支持（特に若者・女性）の背景、マスコミの持ち上げ、などの問題意識が出された。

これを踏まえ、上條貞夫弁護士が講演。上條弁護士は冒頭、橋下氏の九条に対する考えをまず確認。「自分の命に危険があれば、他人は助けないというのが九条の価値観だ」、「瓦礫処理が進まないのも全ては憲法九条が原因」など橋下発言。なぜこのような解釈が出てくるのか、普通の人でもこんなこじつけは思いつかない。九条を変えたいとの考えからこんなヤクザのような言いがかり。

その論理の線上に、憲法違反・人権侵害の思想調査の実施があり、独裁的体質であること。橋下氏への市民の期待は、大阪

が全国でも一段と閉塞感の強い中、「変えてくれるのではないか」との思いが反映したもの。これは30年代のドイツの状況と同じ。

ファシズムは双葉のうちに摘み取る必要を指摘。労働運動でその反撃ははじまり、それがナチスの時とは違う「摘み取れる」情勢であることを指摘した。

会場からの発言も相次ぎ、マスコミが持ち上げ報道に終始する中、橋下氏の発言内容や政策として進めている事実を考え、それを一つずつ知らせていくことが、今求められているとの結論となった。

分科会⑩「横田基地撤去へ」

参加人数：20団体、32人。はじめに、青梅九条の会の霍田一忠さんが「日米軍事同盟の深化と横田基地」の問題提起。沖縄では行えない100人ものパラシュート降下訓練が行われている。3月に航空自衛隊航空総隊が移転してミサイル防衛の拠点に変貌し、日米軍事一体化が強化されているなど、横田基地の現状や撤去の座り込みなどの運動について話した。

続いて、写真・グラフを使ったパネルも紹介しながら、12名以上が発言。

「九条に反して存在する基地に対して大きな声を上げ続ける必要を痛感（昭島）」「基地の横に住んでいるが、軍用機が落ちた場合の避難訓練などやってほしい。基地をなくして跡地を有効に使えば、市の発展も進む（福

生)」「夕方、横田基地から米国歌“星条旗よ永遠なれ”が聞こえているが、最近“君が代”も放送。エンジンテストもうるさくなっている。うるさいと電話するのも運動のひとつ(あきる野)」「毎月第3日曜日の座り込みは4年目。多い時で80名を超える。横田基地のことが広がっ

てきた(福生)」「公民館まつりで横田基地を取り上げて展示。基地の実態を知ってもらった(東大和)」などのほか、多岐にわたっての発言があった。

九条を守り生かす運動と結んで、沖縄とともに首都東京の米軍基地撤去の運動を発展させる必要性を学んだ分科会だった。

東京の「九条の会」大交流会・第15回実行委員会 総括会議の記録

7月30日(月)18時から、豊島区民センターにて東京の「九条の会」大交流会の第15回実行委員会(総括会議)が開かれました。参加者は28人でした。

最初に実行委員長・仲築間卓蔵さんが大交流会を終えての挨拶。続いて事務局から大交流会の経過と総括について次のような報告をおこないました。

(1) 参加者は全体で700人を超える規模になり、また、いくつかの区市町村で参加者がなかったものの、多くの九条の会から参加者が得られた点で今回の交流会は基本的には成功と言える。ただし、分科会に積極的に関わった会とそうでない会とで参加への積極性にも違いが現れたなどのばらつきが見られた。

(2) 財政は、4月のプレ企画が赤字だったが、5月のプレ企画、7月の本企画ともに黒字になり、会の財政を圧迫しないですんだ。

(3) 内容的には、全体会の「制服向上委員会」の歌は大好評だった、渡辺治さんの講演もいつも以上に力が入った内容で、参加者からも「情勢がよくわかった」との声が多く寄せられた。分散会は10会まで設置できるように教室を予約し、当日の参加者状況から5分散会を設置したが、午後になって開始する時点では参加者が減り3分散会になった。分科会は第3分科会が中止となり、合計9つの分科会を開いたが、すべて満員の参加状況だった。ブースは2教室を使って行われた。

本日は実行委員会のみなさんからも意見を出して頂いて大交流会の総括をしたい。また、今後の取り組みについても議論を開始したい。

以上の報告を受けて、自由に討論しました。

(1) 参加者について、次のような意見が出されました。開催2週間前には300~400人し

か事前登録がなかったのに、当日蓋を開けてみたら700人以上の参加があったということは、事前登録制というやり方がうまく機能しないということではないのか。参加の呼びかけがどこまで十分に届けられたのか、区市町村レベルには行き届いているが、そこからさらに下の地域にはどれくらい届いているのか。地域の会に呼びかけたが、やはり開店休業状態の会も多かった。まだつながりのできていない会も多い。それらとどうつながり、盛り上げていくのかが、今回の交流会の狙いだったはず。多くの参加者を組織できた会もあるが、そうならなかった会も多い。

(2) 財政については、チラシの枚数や資料代に関する確認の質問がありました。

(3) 内容について、次のような意見が出されました。今回の企画は2010年の「まつり」と違って九条の会の中の交流が目的だったが、どうも一般の企画のようになってしまっているのではないかと。岐阜県の交流会のDVDを見たことがあるが、会員が主人公のすばらしい交流会で学ぶべき点が多かった。分散会に人が来なかったのはなぜか、分科会を設置したためにそちらに流れてしまったのか、そうであればその点は失敗ではないか。いや、自分たちも分科会を開催したが、大事なテーマだと思って開催したし、それも九条の会の運動の交流なのだから、分科会か分散会かという二者択一ではないと思う。

また、東京の九条の会運動の今後の発展方向については、次のような意見が出されました。大学生と一緒に地域の「平和祭」を取り組んで、いまの若者が「憲法が活かされていない社会」の犠牲者だということを実感した。若者だけでなくすべての階層の

苦しみの根源は「憲法が活かされていない社会」にある。そのように考えればいろんな問題を九条問題とつなげて取り組めるし、若者とも共同できる。渡辺治さんの講演では「もっと武器を使おう」ということが強調されたがその武器とは選挙と憲法

だ。九条の会としても憲法を武器として諸問題に積極的に斬り込んでいくことが大事だ。自分の地域・地元をよく見て、本当に憲法が活かされているのか点検し、その点で様々な人々と対話するような行動提起が必要なのではないか。それが九条の会が地域に根をおろすということだろう。

以上のような討論を受け、事務局が今後の運動についてのたたき台を準備することになりました。

◇お知らせ◇

東京の「九条の会」大交流会の第16回実行委員会ご案内

日時：9月10日(月)

18時～20時30分

会場：けんせつプラザ東京

(JR大久保駅下車)

議題：大交流会の総括と九条運動のこれから

※第15回実行委員会の討論(7ページ掲載)を受けて、東京でのこれからの運動を話し合います。ぜひご参加ください。

2012年 九条の会講演会

日時：9月29日(土)13～16時

発行 九条の会東京連絡会
〒101-0064 東京都千代田区
猿樂町1-4-8 松村ビル4F
TEL 03-3518-4866
FAX 03-3518-4867
ホームページ
<http://www.9jo-tokyo.jp>
メールアドレス
mail@9jo-tokyo.jp

大交流会で 大きな風が吹く予感が・・・

東京の「九条の会」大交流会 実行委員長 仲築間卓蔵

7月1日の渡辺治さんの話を聴きながら、(涙もろくなったのでしょうか) おもわず目頭が熱くなった場面があったのです。こんな経験ははじめてです。「話のどこで」ですって? 渡辺さんは多摩市民九条の会で話したときのエピソードを紹介していましたね。「各地九条の会の経験を、さらに大きく発展させる」ことに力点を置いていましたが、その中で、多摩市民九条の会で講演したときのエピソードを話していましたね。多摩の人たちに、新潟県加茂市の市長(防衛官僚だったこと。九条の会「アピール」に賛成したこと。公民館の使用料を無料にしたこと。県立病院の産科廃止をくい止めたこと。9条・25条が生きる加茂市にしたいこと。新津市での九条の会講演会に参加する人のために、マイクロバスの補助金を出したこと。保守系の支持者から「裏切り者!」と非難されたこと。5期目の選挙は無投票当選だったことなど)のことや、東北の市町村長でつくる九条の会のことを話したら、前列で聴いていた男性が(なんと多摩市長)「多摩のみなさん、公民館が無料でなくてごめんなさい」と謝ったそうです。「でも、非核都市条例は採択した」と。

そのとき、市民の一人が「公民館の使用料は、けっして高くないよ。がんばってね」と言ったといひます。目頭を熱くしたのは、そのやりとりを聞いたときなのです。多摩市政が、真に市民のための市政かどうか(残念ながら)知識はありませんが、そのワンシーンで多摩の「未来」が見えたような気がしたのです。少なくとも、市民と市長のコミュニケーションを見たのです。多摩市民九条の会が、やがて市長といっしょに次のステップを踏み出すであろう予感がしたのです。

九条の会・東京連絡会の「交流会」の役割は、まさにそのような経験の交流の「場」です。これからの一年、一見「複雑」に見える状況を迎えるでしょうが、「九条を守り、生かす」大きな風は、「複雑」に見える状況を吹き飛ばすことになるに違いありません。東京連絡会「交流会」の出番です。最後になりましたが、正則高等学校のご協力なしに今回の「大交流会」の成功はなかったといひていいでしょう。心から感謝申し上げます。